

□ 主な内容

【自動車燃費一覧が公表されました！】

国土交通省では、自動車ユーザーの省エネルギーへの関心を高め、燃費性能の優れた自動車の開発・普及を促進するため、平成 29 年末時点の自動車燃費一覧を公表しました。

<http://www.mlit.go.jp/common/001226473.pdf>

【平成 30 年度 JCOMM 賞候補募集中！】

日本モビリティ・マネジメント会議 (JCOMM) では、平成 30 年度 JCOMM 賞を募集しています。〔締切: 4 月 17 日 (金)〕

<https://www.jcomm.or.jp/award/jcomm%E8%B3%9E%E5%8B%9F%E9%9B%86/>

目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 140 回)

●「EST と SDGs ～ 共感が生み出す共発展」

【大阪大学 工学研究科 地球総合工学専攻 教授 土井健司】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 140 回)

●「公共交通を中心とした姫路市総合交通計画の取り組みについて」

【姫路市都市局交通計画室 室長 岡田俊文】

3. ニュース／トピック

●自動車燃費一覧について【国土交通省】

●道路空間を活用したカーシェアリング社会実験の拡充について【国土交通省】

●日本水素ステーションネットワーク合同会社の設立について【経済産業省】

●平成 30 年度省 CO2 型リサイクル等設備技術実証事業の募集について【環境省】

●ポートライナーで交通環境教室を開催しました【神戸運輸監理部】

●平成 29 年度九州運輸局交通政策関係表彰式の開催について【九州運輸局】

●平成 30 年度 JCOMM 賞候補募集について【日本モビリティ・マネジメント会議】

●2022 年度までに年間 100 万台の電動駆動車の販売目標について【日産自動車株式会社】

●公共交通機関における電気バス調達に助成金を拠出【ドイツ連邦環境省】

4. イベント情報

●アースデイ東京 2018【2018/4/21,22】

●第 16 回 アジア太平洋地域 ITS フォーラム【2018/5/8-10】

●第 13 回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)【2018/7/27-28】

●第 25 回 ITS 世界会議コペンハーゲン 2018【2018/9/17-21】

●第 16 回 ITS シンポジウム 2018【2018/12/13-14】

5. その他

●EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！

●EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！

●「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

●エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

●交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

●交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

●記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 140 回)

●「ESTとSDGs～共感が生み出す共発展」

【大阪大学 工学研究科 地球総合工学専攻 教授 土井健司】

1961年に初版された宮本常一の「庶民の発見」のなかに、次のようなくだりがある。「雑な仕事をすれば、次に来た職人もそれを見てつい雑な仕事をする。だから『いい仕事』をしておきたいと、石積みの職人は言う。石工のこの矜持は、施主ではなく、未来の職人たちに宛てられていた。石工のこのことばを聞き書きした民俗学者は、そこに『だれに命令せられるのでもなく、自らが自らに命令することのできる尊さ』を見た」。ものづくりの世界に「共感」が、世代を超えて職人同士や後世代に及ぶことを示唆している。

いかに価値観が多様化しようとも、「共感」が人を動かすことに変わりはない。むしろ、ネット空間が強力な世間(いいね！に支配された社会空間)を形成する現代社会においては、共感の力がこれまで以上に増している。

この「共感」を武器に、国連の持続可能な開発目標(SDGs)は、いまや学術の場においても政治の舞台においても、世界を動かす大きな原動力となりつつある。すでに広く知られていることではあるが、SDGsは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として宣言および目標であり、ミレニアム開発目標(MDGs)の後継として17の目標と169のターゲットからなる取り組みである。そのビジョンは「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」とされている。この「誰一人取り残さない」という言葉に加えて、SDGsの枠組みそのものが新しい共感を生み出す仕組みとして機能している。17目標のもとに169の共通言語としてのインディケータを備えたSDGsが、万人の包摂(inclusion of all)へと向かう明確な共通言語を軸とした新しい共感の枠組みづくりへのシフトである点において、SDGsは人の意識や行動を本質的に変えるものであると考えられる。

今日、ESTの推進においてSDGsが大きな追い風となっているが、SDGsはまだまだ生まれたばかりの共通言語である。現状のターゲットを見る限り、まだまだ社会の血流としての交通の役割や可能性が過小評価されているように思われる。言語も交通も、社会に実装され、使われながら磨かれるものである。SDGsを追い風にするだけでなく、ESTの具体的な取り組みがSDGsに影響を与える、すなわち交通が言語をも変えるという共発展のプロセスを是非期待したい。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 140 回)

●「公共交通を中心とした姫路市総合交通計画の取り組みについて」

【姫路市都市局交通計画室 室長 岡田俊文】

姫路市は、2006 年 3 月の市町合併により市域が約 2 倍に拡大し、暮らしやすい各地域生活圏や高次都市機能が集積した都心部がそれぞれ連携し交流するコンパクトな都市空間の形成、多核連携型都市構造の構築を目指した都市づくりに努めています。

本市では 1995～2005 年度までの 10 年間で鉄道・バスの乗車人員が約 2 割減少し、公共交通事業者の採算性悪化やサービス水準の低下など、公共交通は厳しい状況が続いていました。

こうした背景のもと、課題解決へ向けて、2009 年から 2020 年を計画期間とする「公共交通を中心とした姫路市総合交通計画」を策定しました。計画では施策展開の 3 つの柱として「公共交通の利便性向上」「公共交通の利用環境改善」「参画と協働の推進」を掲げ、それぞれに具体的な施策を位置づけ、取り組んでいます。

取り組み事例としては、JR姫路駅周辺においてバスターミナルを含む北駅前広場整備や全国でも珍しいトランジットモールを官民が協働して導入し、自家用車優先から歩行者優先の駅前空間が実現しました。併せてバスロケーションシステムやシェアサイクルの導入も行っています。また、乗車数が大きく落ち込んでいたJR姫新線において、JR西日本と兵庫県、沿線市町が協力して増便試行を行う等、利便性を向上させるとともに、「チャレンジ 300 万人乗車作戦」として沿線住民や企業を巻き込んでマイレール意識の醸成を図ってまいりました。その結果、乗車数がV字回復し、目標の 300 万人を達成し、現在も増加傾向にあります。他にも公共交通がない離島におけるコミュニティバス運行や複数の駅における結節点整備に取り組んでいます。

本計画では具体的な数値目標として、「一人あたりの年間平均公共交通利用回数を 2007 年度実績 100 回から 120 回に増加させること」「自動車から公共交通への利用転換による二酸化炭素排出量を 2007 年度より年間 1 万トン削減すること」の 2 つを掲げています。2016 年度には、それぞれ約 110 回、約 6 千トン削減と推計しています。また、公共交通乗車人員も計画始期に比べて年間 444 万人増加しており、本取り組みの効果が表れてきました。

今回、「第 9 回 EST 交通環境大賞優秀賞」を授与され、大変光栄に感じますとともに、引き続き、広く市民や事業者、関係市町とともに本取り組みを推進してまいりたいと考えています。

3. ニュース／トピック

●自動車燃費一覧について【国土交通省】

国土交通省では、自動車ユーザーの省エネルギーへの関心を高め、燃費性能の優れた自動車の開発・普及を促進するため、毎年、燃費の良い乗用車のベスト10とともに、自動車の燃費性能を評価した「自動車燃費一覧」を公表しています。平成29年末時点で販売されている乗用車のうち、最も燃費の良い乗用車は、普通・小型自動車ではプリウス、軽自動車ではアルト及びキャロルとなりました。

<http://www.mlit.go.jp/common/001226473.pdf>

●道路空間を活用したカーシェアリング社会実験の拡充について【国土交通省】

国土交通省では、道路空間を活用した交通モード間の接続を強化する取組みとして、地下鉄大手町駅に近接した国道1号の道路上にSTを設置し、その有用性等を検証する社会実験を平成28年12月から実施しています。

今般、国道1号の大手町駅付近のSTに加え、新たに新橋駅付近の国道15号の道路上にSTを設置し、3月13日(火)から運用を開始しています。

http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000953.html

●日本水素ステーションネットワーク合同会社の設立について【経済産業省】

燃料電池自動車(FCV)の普及拡大に向けた環境整備を推進するため、水素ステーション運営事業者、自動車メーカー、金融投資家等の計11社により、水素ステーションの本格整備を目的とした新会社「日本水素ステーションネットワーク合同会社」が設立されました。今後の水素ステーションの整備を加速するための中核的役割を果たしていくことが期待されます。

<http://www.meti.go.jp/press/2017/03/20180305002/20180305002.html>

●平成30年度省CO2型リサイクル等設備技術実証事業の募集について【環境省】

環境省は、循環型社会と低炭素社会の統合的実現に向けて、低炭素製品のリユース・リサイクル段階での省CO2化を図り、そのプロセスの効率化及び再生資源の積極的利用に向けた実証的な取組を行う事業者を支援するための公募を開始するので、お知らせします。

<http://www.env.go.jp/press/105250.html>

●ポートライナーで交通環境教室を開催しました【神戸運輸監理部】

国土交通省神戸運輸監理部は、平成30年2月22日に交通環境教室を開催しました。ポートライナー及び車両基地を利用した教室は今回が初めてです。参加した園児は整列利用時のマナーを体験するとともに様々な設備についての学びを深めました。

http://www.estfukyu.jp/pdf/EST_mailmagazine_vol.140_2.pdf

●平成 29 年度九州運輸局交通政策関係表彰式の開催について【九州運輸局】

九州運輸局では、地域公共交通、交通バリアフリーに関する優れた取組みを広く普及・奨励するため、他の模範となる個人・団体の表彰を行っています。地域公共交通部門、交通バリアフリー部門の受賞者が決定し、3 月 28 日に表彰式が行われます。

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/content/000032581.pdf>

●平成 30 年度 JCOMM 賞候補募集について【日本モビリティ・マネジメント会議】

日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)では、国内の様々な MM についての様々な取り組みや研究の中でも、特に優秀な取り組みや研究を選定し、その実現に貢献した個人(複数可)あるいは団体(複数可)を表彰する「平成 30 年度 JCOMM 賞」の募集を開始しました。〔募集締切:4 月 17 日(金)〕

<https://www.jcomm.or.jp/award/jcomm%E8%B3%9E%E5%8B%9F%E9%9B%86/>

●2022 年度までに年間 100 万台の電動駆動車の販売目標について【日産自動車株式会社】

日産自動車株式会社は 23 日、同社の中期計画「日産 M.O.V.E to 2022」の一環として、電動駆動車の拡充、自動運転技術の拡充と進化、およびコネクティビティの加速に向けた計画を発表しました。また同計画において、日産は 2022 年度までに、100%電気自動車(EV)、e-POWER 搭載車をあわせて年間 100 万台販売することを目指しています。

<https://newsroom.nissan-global.com/releases/release-487297034c80023008bd9722aa05f858-180323-01-j?lang=ja-JP>

●公共交通機関における電気バス調達に助成金を拠出【ドイツ連邦環境省】

ドイツ連邦環境省は、公共交通機関の設備改修に対する支援の一環で、電気バスの調達に助成金を拠出することを公表しました。助成ガイドラインに沿い、追加的な投資費用の 80%まで助成を行います。特に 5 つ以上の蓄電池を搭載した電気バスを助成対象としており、対象となる投資費用は、充電インフラだけでなく、研修や修理設備の導入など電気バスの操業に必要な費用となっています。

<https://www.bmub.bund.de/pressemitteilung/bundesumweltministerium-foerdert-anschaffung-von-elektrobussen/>

4. イベント情報

●アースデイ東京 2018

日時:(1日目)2018年4月21日(土)10:00~20:00

(2日目)2018年4月22日(日)10:00~18:00

場所:代々木公園(イベント広場・ケヤキ並木)

主催:アースデイ東京 2018 実行委員会

<http://www.earthday-tokyo.org/2018/02/02/5174>

●第16回 アジア太平洋地域 ITS フォーラム

日時:2018年5月8日(火)~10日(木)

場所:福岡国際会議場

主催:アジア太平洋地域 ITS フォーラム 2018 福岡実行委員会

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_110/katsudou2014tabid_110ap_forum16/

●第13回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)

日時:2018年7月27日(金)~28日(土)

場所:愛知県豊田市 名鉄豊田ホテル

主催:一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議

<https://www.jcomm.or.jp/convention/>

●第25回 ITS 世界会議コペンハーゲン 2018

日時:2018年9月17日(月)~21日(金)

場所:Bella Center

主催:コペンハーゲン市

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_100/copenhagen-2018/

●第16回 ITS シンポジウム 2018

日時:2018年12月13日(木)~14日(金)

場所:同志社大学 今出川校地 寒梅館

主催:同志社大学、特定非営利活動法人 ITS Japan

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/16th2018/

5. その他

- EST パートナースHIP会員制度に参加する団体を募集しています！
2013年7月16日から募集を開始し、37団体が参加しています。
会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。
http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
<https://twitter.com/officeEST>
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
<http://www.green-m.jp/>
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
配信申込はこちらから
<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html
- 記事募集中！
本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。
EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp (担当: 熊井)

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>